



「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に 必要な力」について

～「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について
(平成23年1月中央教育審議会答申)」における提言～

平成24年9月7日
生涯学習政策局政策課

中央教育審議会（平成23年1月31日答申）

課題 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」～提言のポイント～

- 若年者の高い失業率・早期離職率、若年無業者の存在等
「学校から社会・職業への移行」や「社会的・職業的自立」に課題。
- 若者個人の問題ではなく、産業構造や就業構造の変化等社会全体を通じた構造的課題。
各界が役割を発揮し、一体となった取組が必要。
- その中で学校教育は重要な役割を果たすもの。
学校におけるキャリア教育・職業教育の充実が必要。

・15～24歳の完全失業率：約9.4%（平成22年）
 ・15～24歳の非正規雇用率：約31.7%（平成22年）
 ・若年無業者（ニート）：約60万人（平成22年）
 ・新規学卒就職者の3年以内の離職率：
 高校卒約37.6%、大学卒約30.0%（平成20年）

基本的方向性

キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア^(注1)発達を促す教育

- 幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に実施
- 様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力^(注2)を中心に育成

職業教育

一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育

- 実践的な職業教育を充実
- 職業教育の意義を再評価することが必要

生涯学習の観点に立った キャリア形成支援

生涯にわたる社会人・職業人としてのキャリア形成（社会・職業へ移行した後の学習者や、中途退学者・無業者等）を支援する機能を充実することが必要

(注1) キャリア

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

(注2) 基礎的・汎用的能力

- ① 人間関係形成・社会形成能力 ② 自己理解・自己管理能力
 ③ 課題対応能力 ④ キャリアプランニング能力

推進の主なポイント

小学校

- 社会性、自主性・自立性、関心・意欲等を養う など

中学校

- 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く など

高等学校（特に普通科）

- 進路指導の実践の改善・充実
- 普通科における職業科目の履修機会の確保 など

高等学校（専門学科）

- 長期実習等実践的な教育活動の実施、実務経験者の登用 など

大学・短期大学

- 教育課程の内外を通じた社会的・職業的自立に向けた指導等の実施
- 養成する人材像・能力の明確化、実践的な教育の展開 など

高等専門学校

- 地域の産業界との連携による、共同教育の充実、インターンシップの推進
- 企業人材の積極的活用によるものづくり技術者養成の取組の強化 など

専門学校

- 早期から十分な職業理解や目的意識を持たせた上での一人一人のキャリア形成支援
- 「単位制学科」や「通信制学科」の制度化の検討 など

高等教育における「職業実践的な教育に特化した枠組み」

- ① 新たな学校種の創設、
 ② 既存の高等教育機関における活用
 を念頭に今後詳細に検討

審議の出発点

- 子ども・若者が、学校を出た後に、社会的・職業的に自立できるようにするためには、どうすればよいのか
- 課題が顕在化している「学校から社会・職業への移行」を、どうすれば円滑化していけるのか
- これらのために、学校教育として、何をしていかなければならないか



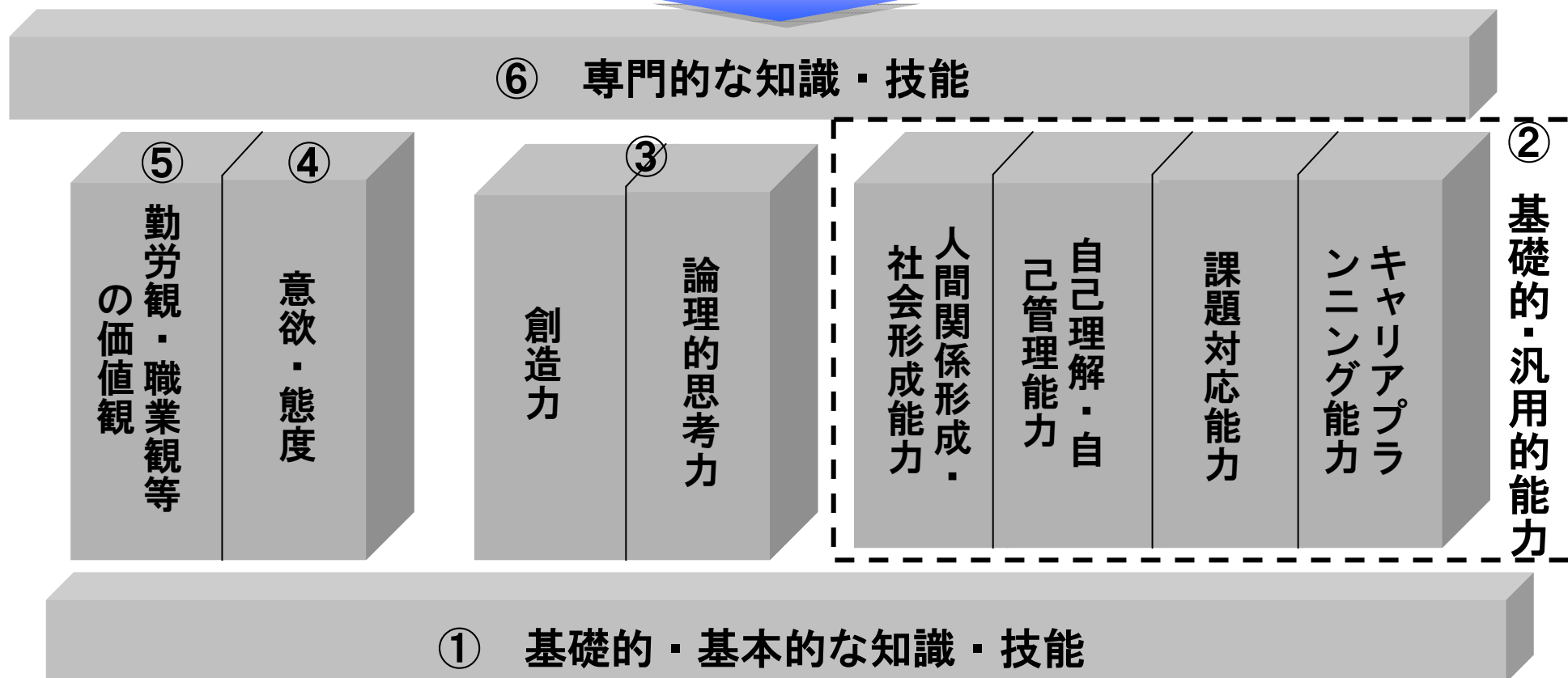
諮問理由説明(平成20年12月24日)(抜粋)

「社会・職業への円滑な移行のために学生・生徒に求められる基礎的・汎用的な能力について、初等中等教育、高等教育それぞれの段階に即して明らかにする」

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の明確化

- 社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力は、中教審でこれまで提言してきた「生きる力」や「学士力」に含まれるものと考えられるが、キャリア教育・職業教育を進める上で、その要素を具体化して明示することは意義がある。
- 社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力については、次の点を考慮
 - ・ 人の生得的な力ではなく、義務教育から高等教育までの学校教育において育成することができる力であること
 - ・ 子ども・若者にとって夢や希望、目標を持ち、それらを具体的に行動に移していくことで実現を図ることが出来るような力であること
 - ・ 社会への出口が中学校卒業段階から高等教育修了段階まで多岐にわたっており、発達の段階にも配慮が必要。

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素として、
以下のとおり整理



「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の内容①

①基礎的・基本的な知識・技能



教科を中心とした教育活動を通して
中核的に修得されるべきもの

- 社会に出て生活し、仕事をしていく上でも極めて重要な要素
- 初等中等教育では、学力の要素の一つとして位置付けられ、新しい学習指導要領における基本的な考え方の一つ
- 社会的・職業的に自立するために、より直接的に必要なとなる知識、例えば、税金や社会保険、労働者の権利・義務などの理解も必要

②基礎的・汎用的能力

※p6で詳述



キャリア教育がその中心として育成すべき能力
様々な教育活動を通して育成

- 分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力
- 「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理

③論理的思考力、創造力



基礎的・基本的な知識・技能や専門的な知識・技能の育成と
相互に関連させながら育成するもの

- 物事を論理的に考え、新たな発想などを考え出す力
- 論理的思考力は、学力の要素である「思考力、判断力、表現力」にも表れている重要な要素
- 後期中等教育や高等教育の段階では、社会を健全に批判するような思考力を養うことにもつながる
- 創造力は、変化の激しい社会において、自ら新たな社会を創造・構築していくために必要

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の内容②

④意欲・態度



児童生徒一人一人が様々な学習経験等を通じて個人の中で時間をかけて自ら形成・確立するもの

- 意欲・態度は、特に初等中等教育では、意欲の向上や態度の育成が重要な課題であるように、生涯にわたって社会で仕事に取り組み、具体的に行動する際に極めて重要な要素
- 意欲や態度が能力を高めることにつながったり、能力を育成することが意欲・態度を高めたりすることもあり、両者は密接に関連

⑤勤労観・職業観等の価値観



児童生徒一人一人が様々な学習経験等を通じて個人の中で時間をかけて自ら形成・確立するもの

- 価値観は、人生観や社会観、倫理観等、個人の内面において価値判断の基準となるもの。価値を認めて何かをしようと思ひ、それを行動に移す際に意欲や態度として具体化する関係
- 価値観には、勤労観・職業観も含む。これらを含む価値観は、学校における道徳をはじめとした豊かな人間性の育成はもちろん、様々な能力等の育成を通じて、個人の中で時間をかけて形成・確立していくことが必要

⑥専門的な知識・技能



職業教育を中核として育成するもの

- どのような仕事・職業であっても、その仕事を遂行するためには一定の専門性が必要。専門性は個性の発揮にもつながる
- 自分の将来を展望しながら自らに必要な専門性を選択し、それに必要な知識・技能を育成することは極めて重要
- 専門的な知識・技能は、特定の資格が必要な職業等を除けば、これまでは企業内教育・訓練で育成することが中心であったが、今後は学校教育の中でも意識的に育成することが重要であり、職業教育の充実が必要

「基礎的・汎用的能力」とは何か

基礎的・汎用的能力は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力と整理

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

【具体的な要素例】

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ 等

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

【具体的な要素例】

自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動 等

課題対応能力

仕事を進める上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

【具体的な要素例】

情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善 等

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

【具体的な要素例】

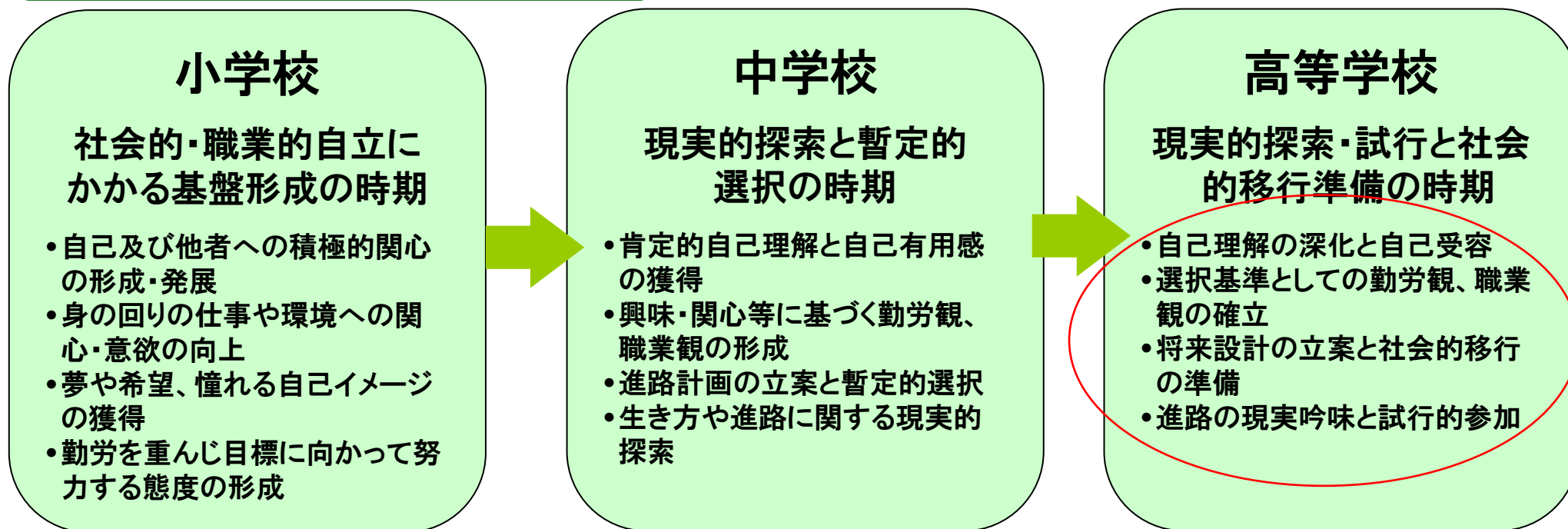
学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善 等

- 社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と、学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成をキャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義
- 具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れる観点から整理
- これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできるだけ分かりやすく提示する観点から整理

「基礎的・汎用的能力」の育成のポイント

- 基礎的・汎用的能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達段階によって異なる
- 各学校では、これらの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成する必要

小・中・高等学校におけるキャリア発達課題



「キャリア教育を創る 学校の特色を生かして実践するキャリア教育」
(平成23年11月国立教育政策研究所)より

各高等学校においては、これらの課題を踏まえ、生徒や地域の実態に即し、学校や学科の特色やこれまでの取組を生かしながら、「基礎的・汎用的能力」(「人間関係・形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」)それぞれについて具体的な目標を設定していくことが必要